

令和6年12月議会報告 鵜飼の保存活用

【背景と課題】 ・三隈川の鵜飼は、400年以上の歴史を持つ日田市の象徴的伝統行事であり、国登録の無形民俗文化財。 ・観光資源として市外からの誘客効果を持つ一方、近年は観光需要の変化、後継者不足、鵜匠の生計維持など複合的な課題を抱える。

・特に「さお差し」と呼ばれる船頭の技術継承が難しく、従事者の高齢化が進行。 ・市民の関心も次第に薄れつつあり、文化の保存と活用を両立する「地域一体の運営体制」が求められている。 ・観光収入に頼るだけでなく、教育現場や地域行事と連動した「文化体験・学びの場」への転換が必要。

【崎尾の質問・提案】 ・鵜飼を「文化財として残すだけでなく、地域生活と経済の一部として支える仕組み」へと再構築すべきと指摘。 ・特に以下の3点を提案： 教育面：小中学校での鵜飼授業を体系化し、子どもたちが日田の伝統を学ぶ機会を恒常化。 観光面：体験・映像・ナイトツーリズムなど、新しい観光形態と結びつけ、若年層にも届く発信を行う。 経済面：鵜匠・さお差しの労働環境を整備し、安定的な収入を確保するための支援制度を検討。 ・また、地域住民が鵜飼に「参加できる仕組み」として、地域協力隊やボランティアガイドの育成も求めた。

【市の答弁】

・鵜飼保存対策事業を継続し、鵜匠・船頭への経費補助と後継者育成を支援している。 ・教育委員会では令和3年度から鵜飼学習を導入し、市内小中学校で年1回の授業を実施中。今後は教材化や映像活用を含め、内容充実を検討。 ・観光協会・旅館組合と連携し、SNS発信、映像記録、多言語パンフレットなどによる情報発信を強化。

・文化財保存の視点と観光施策の連携を図るため、庁内横断的な協議体の設置を検討中。 ・後継者対策については、地域おこし協力隊を活用し、若年層の参画を促進する方向で調整している。

【今後の方向】 ・日田市の鵜飼を「観光資源」から「地域文化の中心」へ位置づけ直し、教育・経済・観光の連携による持続可能な運営体制を構築する必要がある。 ・伝統継承のためには、市民の理解と参加を高める「地域ぐるみの文化支援」が不可欠であり、今後も保存と活用の両面から取組が求められる。